におい・かおり環境学会誌　執筆の手引き（ノート）

嗅覚　太郎1，2，臭気　香1\*†，三点　次郎2

１公益社団法人におい・かおり環境協会　〒160-0008　東京都新宿区四谷三栄町6-6

２におい・かおり環境学会誌　事務局　〒160-0008　東京都新宿区四谷三栄町6-6

この原稿は，におい・かおり環境学会誌のノートの執筆の手引きです．ここに，原稿を作成するのに必要なレイアウトやフォントに関する情報を記述しています．この原稿作成例を参考にして，題目や文章，図表などをレイアウトしてください．

この要旨を含め，邦文題目部分の幅は本文よりも左右13mmずつ狭くします．要旨のフォントは明朝体の全角8.5ptを用いてください．ノートの要旨の長さは200字以内です．

原稿本文

原稿は原則として，常用漢字，現代仮名遣いを用いて記述してください．平易な表現で丁寧に内容を記述し，記述の内容の解釈が読者によって異なることのないように配慮願います．また，内容の理解に特殊な知識などを要する場合には補遺での解説，補足を付け足してください．句読点は，日本語では全角カンマ「，」と全角ピリオド「．」を用い，英語では半角カンマ・スペース“，”と半角ピリオド“．”を用いてください．機種依存文字（① ②③ⅠⅡⅢ㊤ ㊥ ㊦など），半角カタカナは用いないようお願いします．

全体のレイアウト

ここでは，原稿全体に関わるレイアウトについて説明します．

原稿は，次の3つの部分で構成します．

①邦文題目部分：横1段組

（題目，著者名，所属機関名，同住所，E-mail，要旨）

②本文部分：横2段組

③英文題目部分：横1段組

（題目，著者名，所属機関名，同住所，要旨，キーワード）

原稿用紙は，A4判の縦の白紙を使用し，横書きとします．

基本的なマージンは，次のとおりです．

上マージン　：約25mm

下マージン　：約25mm

左右マージン：約20mm

ただし，題目部分の左右マージンは33mm

ヘッダは事務局で入れます．フッタにはページNo.を中央に挿入してください．

報文題目部分のレイアウト

邦文題目部分は，題目，著者名，所属機関名，同住所，要旨から構成されます．それぞれ，次の順に横1段組で記載してください．

|  |  |
| --- | --- |
| 主題 | ：17pt，センタリング |
| 行間スペース | ：約8mm（副題があるとき） |
|  | 約8.5mm(副題がないとき) |
| 副題： | ：10pt，センタリング |
| 行間スペース | ：約8.5mm |
| 著者名（姓名順）： | ：11pt，センタリング |
| 行間スペース | ：約5mm |
| 所属機関，同住所 | ：8pt，センタリング |
| 行間スペース | ：約5mm |
| 要旨 | ：8.5pt，1行およそ50文字，7行以内 |
| 行間スペース | ：約5mm |
| キーワード | ：8pt，5～7語，2行以内 |

本文部分のレイアウト

本文は２段組みとし、文字間隔は，1段1行が全角で約25文字，1ページ約40行となるよう調整してください．

本文のフォントは明朝体の9ptを用いてください．

脚注は本文の下に線を引き，分けて印字する．脚注は本文の行数には含まれません．

ノートに関してはポイントシステムによる項目分けを行わず，太文字で項目見出しを作成し，内容を段落として区別します．詳細は執筆要綱の表－2（2）ノートの構成と内容を参照してください．

数式は，次に示す（式1），（式2）のように，全角1字分下げて書いてください．

　　　（式1)

　　　　　　　　　　　　（式2)

数学記号は，文章中に出てくる場合も，数式のフォントと同じものを用いてください．

式番号は括弧書きで右詰めにします．

図表

1）図・表・写真などは重複を避け，十分に選択の上，最小限にとどめてください．

2）図・表・写真の基になったファイルを1枚ごとに別紙（A4）とし，各葉ごとに著者名と図・表番号を右下のところに付けてください（写真は図として扱います）．

3）図・表の番号は図－1，図－2，表－1，表－2などと記入し，図についてはその下側，表についてはその上側に，その番号および標題を必ず記入してください．

4）図・表には，内容を的確に表す標題を付け，かつ，はっきり見えるものを提出してください．

5）図・表の標題，内容，説明などは和文，英文のいずれかに統一してください．

6）オンライン誌はカラー掲載が可能ですが，冊子印刷はモノクロ印刷となります.もし冊子印刷でカラー図・表の掲載を希望する場合には，投稿の際に当編集委員会までその旨を連絡願います．この場合，その実費は著者負担とします．

7）写真データの解像度は300dpi以上とし，データ型式はJPEGなどとします．

8）図や写真をスキャンする場合，カラー原稿のスキャンモードはRGB（24bits），解像度300dpi，JPEG形式などとします．モノクロ原稿の場合，スキャンモードをGrayscale（8bits），解像度300dpi，JPEG形式などとします．

9）図やグラフなどのバックには色や灰色を使わず白とします．

10）図表の文字および標題のフォントは明朝体の全角を使用してください．図表中の文字のサイズは8pt程度としてください．

11)本文中に使用した図表は別ファイルでも提出してください．

図表の例を表－1および図－1に示します．

表－１　邦語で構成した表の例（邦語表題が1行を超えるときは，インデントして折り返す）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 測定点 | 気温（℃） | 湿度（％） | 臭気指数 |
| A | 15.3 | 60 | 15 |
| B | 14.7 | 63 | 12 |
| C | 14.5 | 68 | 10未満 |



図－１　臭気指数

用語・術語などの用法

1）原則として，関連分野学術用語集の用語などによります．

2）学術用語は原則として文部科学省編の「学術用語集」に従います．前項の用語集にない用語については，JIS用語その他の適当と思われる慣用語を用いてください．

3）内容表現に適切と思われる特例の用語を用いる場合は，最初に出るところでことわりを入れてください．

記述例 : ニオイ（以後“におい”にこの表現を用いる）

4）漢字，かな，送り仮名などに関しては，現代仮名遣い辞典を参考としてください．

5）文章内に用いる技術用語，専門用語などの外国語は，原則として原綴り（できるだけ英語綴りを用いる）とします．ただし，一般化されているもの，あるいは術語となっているものはカタカナを用います．

6）単位・量は特別の理由のない限りSI単位を用います．

7）数字，数式および数式表示

・数量や序数を表す数字はアラビア数字を用い，漢字と結合して名称や概数を表す場合は漢数字を用います．

記述例 : 10m，図－1，表－2，第5章，三角形，二，三の例，一例として

・小数点や桁区切りは，0.123 や456789などのように書き，.123や456,789のようには書かないでください．

・数式を文中に書く場合には，原則として1行におさまる表記法を用い，使用する記号の説明および単位とともに明瞭に表示してください．

・文中とは別に式だけを書く場合は，数式エディタなどを使用してください．

・数式表示の形式は，理解しやすい表記としてください．

8）略記など

化合物などの化学式や略号の表現，長い用語の略記は使用してもかまいません．ただし，最初に出るところで正しい日本名または原語名を示してください．化合物名は原則としてIUPACに従います．におい・かおり関連の化合物名は慣用名を使用してもよいこととします．記述例 : メチルメルカプタン（以後MMと略記する）

1）から8）に関して，編集委員会から変更などの指示があった場合にはこれに従っていただきます．

その他の留意事項

一般に公表されていない文献資料，パンフレットなどからの引用はできるだけ避けてください．また，私信および投稿中の物は，入手先，投稿先などを明示し，そのコピーを添付してください．

キーワード：明朝体8pt，5ワード程度，2行以内

参考文献の記載例

参考文献は出所およびその部分を明確にし，本文中右肩に片カッコ付で表示してください．

原則として日本語文献は全角文字を用い，英語文献は半角文字を用います．

英語文献の著者名は，“and” などの接続詞を用いてもよいこととします．

［雑誌］　参考文献の記載例：1），2)

・著者名，（連名者も記載） : 表題，雑誌名（略号可），巻，開始頁-終了頁，発行年．

［単行本］　参考文献の記載例：3），4)

・著者: 発行年，表題，“書名”，p○-○，出版社．

［単行本分担執筆で編集者，監修者がいる場合］参考文献の記載例：5），6)

・著者（編集者または監修者） : 発行年，表題，“書名”，p○-○，出版社．

※［単行本］および［単行本分担執筆で編集者，監修者がいる場合］の外国語文献著者名表記について，ファーストネームはイニシャル表記でも可．

［辞典，便覧，白書など］　参考文献の記載例：7），8)

・編集者または発行所名 : 発行年 ，“ 書名”，p○- ○，編集者と異なる場合は出版社．

［その他］　参考文献の記載例：9），10)

・学会発表，社内報告，年報，紀要など

以下に記載例を示します．フォントは明朝体の8.5ptを用いてください．

1）神田太郎，本郷次郎 : においの特性，におい・かおり環境学会誌，**34**，35-45，2003．

2）Dravnieks, A. and Jarke, F. : Characteristics of odor exhausted from many plants, *J. Air Pollut. Control Assoc*., **30**, 1284-1289,1980．

3）文京太郎 : 2003，住空間における各種脱臭法の評価，“ 脱臭法”，p12-56，科学出版．

4）Robert West : 2000, Deodorization methods of high strength of VOCs, in *Odor Research*, p155-186, Academic Press New York.

5）香料三郎（香　花子編集（または監修）） : 2001，匂い香りが生体に及ぼす効果，“ 香りの評価”，p455-480，東京出版．

6）Hanako Abe (ed. Kenji Inoue) : 2003, The mechanism of olfactory fatigue, in *Evaluation and Measurement of Odor*, p 467-492, Academic Press New York

7）におい・かおり環境協会編（環境省大気保全局大気生活環境室監修）:1998，“最新「においの用語と解説」”，p 5-6.・中村運訳・編:1992，“分子生物学辞典”，p 476，化学同人．

8）日本化学会編:2003，“応用化学編（Ⅱ），化学便覧第6 版”，p 598，丸善．

9）東神田研:各種脱臭法の比較，第13回におい・かおり環境学会講演要旨集，25-26，2001．社内報告，年報，紀要などは学会発表記載例に準ずる．

10）Dunn, D., Smith, M. and Brenner, M. : Deodorization mechanism of VOCs by biofilter, *Proceedings in the 50th International Symposium of deodorization, June 6-10, Ottawa*, 11-12,2003．

**Print Sample of English Manuscripts for Transactions of Journal of**

**Japan Association on Odor Environment**

Tarou KYUUKAKU1，2，Kaori SYUUKI1\* ，Jirou SANTEN2

1Japan Association on Odor Environment

YotsuyaMS-building 4F,6-6 Yotsuyasaneicho Shinjuku-ku Tokyo,160-0008,Japan

2Conference on Odor Environment

YotsuyaMS-building 4F,6-6 Yotsuyasaneicho Shinjuku-ku Tokyo,160-0008,Japan

**Abstract**　 This manuscript is a guide to the writing of journal JAOE . This will provide an example and directions for the layout and font size/style to be used. Please refer to this when preparing the headings, figures/tables and text of your manuscript. The manuscript should be submitted on A4 size.

The margin of the title section including this abstract should be 13mm narrower then the main text. The fonts should be 9pt of Mincho. The abstract of English is about 200 words in length. The English key words should be in 9pt and about 5 words.

**Key words** : Mincho 8.5pt, About 5 words, Within 2 lines